



令和 7 年度

学校いじめ防止基本方針

本方針は、人権尊重の理念に基づき、恵曇小学校の全ての子どもが「明るく楽しい充実した学校生活」を送ることができるよう、「いじめ問題」を根絶することを目的に策定するものです。

この基本方針は以下の構成となっています。

- 1 いじめの定義といじめに対する恵曇小学校の基本方針
- 2 未然防止のための行動計画（年間計画）
- 3 早期発見のための行動計画
- 4 いじめが発見された場合の行動計画

1 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいうこととした。（いじめ防止対策推進法 第2条）

2 上記の定義に基づき、いじめ防止に向けて以下の基本姿勢を全教職員で共有します。

- ①いじめの兆候や発生を見逃さない雰囲気づくりに努めます。
- ②子ども一人一人を細やかに見つめ、自尊感情を育む教育活動を推進します。
- ③子どもをいじめに向かわせない未然防止に取り組む体制を全教職員で共有します。
- ④いじめの早期解決のために、関係する子どもの安全を保障するとともに、学校内だけでなく各種団体や専門家と協力して解決にあたります。
- ⑤学校と家庭が協力して、防止のための取組や発生の際の解決にあたります。



鹿島ふれあい学園
松江市立恵曇小学校

【未然防止のための行動計画】

いじめが起きにくい学校・学級づくり

風土づくり・居場所づくり

- ◇互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくり
 - 安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供できる集団づくり
 - いじめが起きにくい親和的な学級づくり（アンケート QU の結果の活用）
- ◇学習指導の充実
 - 学びに向かう集団づくり
 - 意欲的に取り組む授業づくり
- ◇特別支援教育の推進
- ◇いじめに向かわせる要因（ストレス）の改善と共通理解（恵曇っ子を語る会）
 - 友人ストレス、競争的価値観、不機嫌、怒り、ストレス
- ◇心が通い合う教職員の協働体制

いじめに向かわない子どもの育成

絆づくり

- ◇自尊感情を高める学習・活動
- ◇人権教育・道徳教育・メディア教育の充実
 - 人権教育授業公開日、人権集会の開催
 - 人権啓発標語の作成、掲示
 - 命を大切にする学習
 - 情報モラル（特にネットトラブル）に関する学習
- ◇特別活動の充実
 - 学級活動の充実（係活動・当番活動）
 - 子どもたちの主体的な参加による活動（児童会活動・縦割り班活動）
- ◇教育相談の充実
 - 教育相談（年3回）
 - SCの活用
 - 心のアンケートの実施
 - アンケート QU の実施

保護者・地域との連携

信頼関係づくり

- ◇学校公開（授業公開）の実施
- ◇面談の定期的開催（家庭訪問、個人面談、学級懇談会）
 - ・メディアコントロールの依頼
- ◇学校いじめ防止基本方針などの周知
- ◇学校だより、学年だより、連絡帳、電話などによる家庭との連携

《未然防止のための年間指導計画》

1 学 期	2 学 期	3 学 期
・学級経営計画の作成 ・教職員研修①（いじめ問題に関する基本的な考え方） ・第1回アンケート QU 実施 ・心のアンケートの実施 ・恵曇っ子を語る会 ～健康・身体面の理解～ ・恵曇っ子を語る会 ～児童の様子～ ・第1回教育相談 ・恵曇っ子を語る会 ～教育相談を終えて～ ・個人面談	・教職員研修②（アンケート Q U の結果分析とその対処法） ・恵曇っ子を語る会 ～運動会を終えて～ ・人権教育授業公開日 ・第2回アンケート QU 実施 ・心のアンケートの実施 ・第2回教育相談 ・恵曇っ子を語る会 ～教育相談を終えて～ ・人権集会 ・個人面談 ・学校評価による反省・見直し	・第3回教育相談 ・心のアンケートの実施 ・教職員研修③ （恵曇っ子を語る会 ～来年度に向けての共通理解～） ・年度末学級経営計画の反省と見直し
・隔週で、水曜日の昼休みに縦割り班活動を実施 ・いじめ等の問題が取り上げられた時（新聞・テレビ）の児童全体への指導、担任への呼びかけ、未然防止につながる学年に応じた指導 ・「いじめ問題への学校の取組振り返りシート」を活用した取組の点検		

【早期発見のための行動計画】

日常観察をして発見する（小さなサインを見逃さない）

◇情報の収集

- 担任・他教職員の観察による気付き
- 保健室（養護教諭）からの情報
- 相談・訴え（子ども・保護者・地域等）
- アンケートの実施
 - ・心のアンケート
 - ・アンケートQ U
- 各種調査の活用
 - ・「いじめ問題への学校の取り組み振り返りシート」等
- 教育相談・面談等の実施
 - ・教育相談（年3回）
 - ・個人面談（1学期・2学期）
 - ・学級懇談会（毎学期）
 - ・地区懇談会（1学期末）
- 学校ネットパトロール

◇相談体制の確立

- 相談窓口の設置・周知
（担任・保健室・身近な教職員）
- いじめ防止対策委員会の設置
（校長・教頭・学級担任・生徒指導主任・養護教諭・人権教育主任）

いじめ発見のためのチェックポイント

<個人レベル>

- ☐ 服装 ☐ 顔色・元気
- ☐ 体の不調 ☐ 一人の行動
- ☐ 過度の笑顔
- ☐ 日記・作文・ノート等

<学級レベル>

- ☐ 悪口 ☐ 冷やかす
- ☐ 陰口 ☐ 無視
- ☐ はやし立てる
- ☐ 物がなくなる
- ☐ 集団から孤立
- ☐ 閉鎖的な小集団

<学校レベル>

- ☐ 教職員からの情報
- ☐ 日記・作文・ノート等
- ☐ 保護者からの情報
- ☐ 地域からの情報

情報の共有

- 報告経路の明示・報告の徹底
（発見者 → 学校いじめ防止対策委員会）
- 職員会議等での情報共有
 - ・恵曇っ子を語る会
 - ・生徒指導職員会議
 - ・臨時職員会議
- 進級時の引継ぎ

学校の対応（組織を挙げて対応）～発見された場合の行動計画へ～

【いじめが発見された場合の行動計画】

松江市立恵曇小学校

1. いじめ情報のキャッチ

- ・本人の訴え
- ・サインの発見
- ・他の子どもからの情報
- ・「いじめ発見ポイント 25」より
- ・アンケート Q-U、心のアンケートより
- ・保護者からの報告

相談窓口：教頭、養護教諭

いじめ
キャッチ

発見者

《対応への心構え》

- 担任一人で抱えこまない。（報告・連絡・相談）
- いじめられている子どもの立場に立った親身な対応をする。
- 子どもと保護者に「全力で守る」という決意とメッセージを伝える。
- 訴えや申し出があったその日に行動する。
- 学校の問題として捉え組織を挙げて対応する。

2. 報告・・・素早く

3. 事実関係の確認

- 被害の態様（暴力・ことば・インターネット等）
- 被害の状況（時・場所・人数等）
- 集団の構造（被害・加害・傍観）
- いじめの動機・背景
- ☆個別に聴き取り
- ☆関係教職員との情報共有 ⇒ 正確な情報把握

【校内いじめ対策委員会】

- ・校長・教頭・生徒指導主任
- ・人権教育主任・担任・養護教諭
- ・PTA会長・教育振興会会長
- ・スクールカウンセラー

市教委

関係機関（学校運営協議会等）との連携

チームでの状況確認と対応方針の確認

事実関係把握と対応方針の確認

対応基本方針の決定

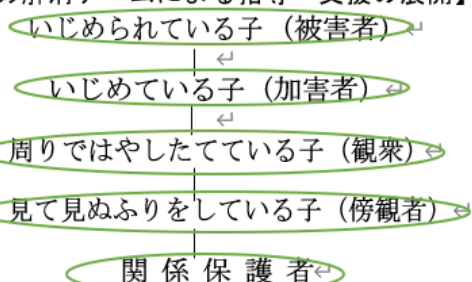
4. 指導体制・方針の決定

- ☆いじめられた子ども、いじめを知らせた子どもを守り通す
- 全教職員による共通理解
- 役割分担の明確化
- 市教委等関係諸機関との連携

5. チームによる指導・支援

- 生徒指導主任を中心とした支援体制の構築→学級担任を含めた 3～4 名のいじめ解消チームの編成
- チームを中心とした連携をとりながらの対応
- 記録とこまめな報告
- 「いじめは決して許さない」という毅然とした姿勢で対応
- 保護者に対しては複数で対応

【いじめ解消チームによる指導・支援の展開】



《迅速な対応》

《組織的な対応》

いじめ解消の判断

緊急保護者の開催

PTA 役員との連携

家庭地域との連携

警察等関係機関との連携

学校相互間の連携

6. 再発防止への取組

- 十分な観察 ⇒ 継続的な指導
- その後の状況把握(教育相談等)
- スクールカウンセラー等を活用した心のケアの充実
- いじめのない学級づくりの取組

いじめ解消の判断

再発防止への対策

* 重大事態が生じた場合は、ガイドラインにそって対応する。

その際には、市教育委員会との連携をさらに緊密にとっていくこととする。